

ふう けい き こう
風景紀行
関田山脈
 70
 北信森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

「**関田山脈**と「**信越トレイル**」

「**北信署**」飯山市の北西部、長野・新潟両県に跨る「**関田山脈**」は、斑尾山から天水山までの標高千メートル前後の山並みが約八十キロメートルにわたって連なり、斑尾高原、なべくら高原、光ヶ原高原やギフチョウ・ヒメギフチョウの混生地として国



関田山脈（鍋倉山）遠望

の天然記念物に指定されている「黒岩山」などの山々を擁するブナ林を主体とした里山です。

日本海から約三十キロメートルのこの山脈は、火山活動によって造られた山地で、山脈の上部はいくつもの池沼が見られます。また、この一帯は全国でも有数の豪雪地で、山脈上部では積雪が七月にも及びます。

この山脈には、昔から集落毎に十六もの峠があり、県境を越えての生活や文化の交流が盛んに行われ、越後から塩、魚などの海産物、信濃から和紙や菜種油などが送られ人々の生活に深い関わりをもっていました。古くは親鸞聖人の布教の道、上杉謙信の信濃攻めの道として伝えられている峠もあります。

山脈上部の森林は、その殆どが国有林で、長野県側は当署が、新潟県側は上越森林管理署が管理しています。その大半はブナを中心とする天然林で、なかでも長野県側の鍋倉山麓には、「森太郎」、「森姫」をはじめとする樹齢三百年以上のブナが林立する森林があり、その中で約二十一杉を平成二年に全国で初めて「郷土の森」として設定しています。また、斑尾、茶屋池、野々海池といった風光明媚な場所もあり、風致探勝林として設定しています。新緑の芽吹きや紅葉の頃の湖沼に映えるブナ林はひときわ美しい姿を見せてくれます。

六月の雪解けとともに、カタクリ、オオイワカガミ、シヨウジョウバカマ、ミ



信越トレイルの利用者

ズバシヨウなどの植物が咲き始め、鍋倉山周辺だけに生育するナベクラザゼンソウもこの時期花を咲かせます。

この山脈には、尾根沿いに総延長八十キロメートルにも及ぶ日本初の歩くトレイル「信越トレイル」が設置されています。関田山脈の自然や地域の文化、歴史に触れてもらえるようにと、長野・新潟両県の関係市町村、団体が一体となって設置しました。平成十六年からNPO法人「信越トレイルクラブ」を中心にルートの本格的な整備が始まり、構想から八年目の平成二十年九月に全線開通し、現在に至ります。

関田山脈には全く道がなかったというわけではなく、かつて使用されていた遊歩道や国有林内の管理歩道、あるいは林道を活用する形で整備が行われ、トレイルが徐々に延びていきました。

国有林部分のルートについては、「関田トレイル」と位置付け、前者と協定を結び、維持・活用を図っています。全線開通を機に、トレイルを利用して

の地域のイベントや学校での自然環境教育も年々増え、平成二十一年度には、延べ三万人に利用していただくまでとなりました。

トレイル道は、道標や案内板も設置されており、また、毎年、刈払いなどの整備もされ歩き易くなっています。

自然とふれ合いながら山頂を目指す登山とは違う「山歩き」を味わってみてはいかがでしょう。

◎アクセス方法

▼マイカー

上越自動車道豊田飯山インターから約三十分～九十分（国道一七号線経由各峠まで）

▼JR及び公共交通機関

飯山駅からタクシーで約三十分～九十分（国道二一七号線経由各峠まで）



ブナの紅葉に染まる野々海池